

<特集「モダリティ」>

ポーランド語におけるモダリティ¹ Modality in Polish

森田 耕司
Koji Morita

東京外国語大学大学院総合国際学研究院
Tokyo University of Foreign Studies

要旨: 本稿は、特集「モダリティ」(『語学研究所論集』第16号, 2011, 東京外国語大学)に寄与するものである。本稿の目的は、30個のアンケート項目に対するポーランド語のデータを提供することである。

Abstract: This report contributes to the special cross-linguistic study on ‘modality’ (Journal of the Institute of Language Research 16, 2011, Tokyo University of Foreign Studies). The purpose of this paper is to offer Polish data for the question of 30 phrases.

キーワード: ポーランド語, モダリティ

Keywords: Polish, Modality

『語学研究所論集』第16号の特集「モダリティ」に関する風間(2011)のまえがきに提示されているアンケート項目及びその意図や説明に基づき、ポーランド語のデータを提示する。必要に応じて、解説も加える。

1. (その仕事が終わったら)もう帰ってもいいですよ。

【許可】「～してもいい」

Możesz	już	wracać	do	domu.
can-2SG.IMPF.PRS	already	return-IMPF.INF	to	house-GEN

ポーランド語は、能力可能と状況可能を明確に区別する言語に属するが、例文1では許可の意味で状況可能の助動詞 *móc* が用いられる。ポーランド語では特に強調する必要がない限り、代名詞による主語は基本的に省略されるが、助動詞 *móc* に2人称単数形の標示が出ている。



本稿の著作権は著者が保持し、クリエイティブ・コモンズ 表示 4.0 国際ライセンス(CC-BY)下に提供します。
<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/deed/ja>

¹ ポーランド語のデータ作成に際して、ご協力いただいた本学特任講師のカロリナ・レシニェフスカ先生に、心よりお礼を申し上げます。

2. (腐っているから、あなたは) それを食べてはいけない/それを食べるな.

【禁止】「～するな」

Nie	wolno	tego	jeść.
NEG	allowed-PRED	that-GEN	eat-IMPF.INF

Nie	jedz	tego.
NEG	eat-IMPF.IMP	that-GEN

ポーランド語には特別な禁止専用の形式がないため、例文2の1文目のように「許可+否定」で表現するか、2文目のように「命令+否定」で表現することになる。

3. (遅くなったので) 私たちはもう帰らなければならない.

【義務】「～しなければならない」

Musimy	już	wracać	do	domu.
must-1PL	already	return-IMPF.INF	to	house-GEN

確信の助動詞 *musieć* 「～はずだ」と同じ形式により、義務「～しなければならない」も表現される。

4. (雨が降るそうだから) 傘を持って出かけたほうがいいよ.

【推奨】「～したほうがいい」

Lepiej	wziąć	parasol.
better	take-PF.INF	umbrella-ACC

日本語と同じように「(より) 良い」という意の形容詞/副詞が用いられる。

5. 歳をとったら、子供の言うことを聞くべきだ/聞くものだ.

【評価的義務】「～するべきだ/～するものだ」

Kiedy	się	zestarzejemy,	powinniśmy	śluchać	tego,
when	REF	age-1PL.PF	should-1PL.PRED	listen-IMPF.INF	that

co	mówią	nasze	dzieci.
what	tell-3PL.IMPF.PRS	our	children

評価的義務は、述語 *powinien* 「(当然) ～べきである」の1人称複数形で表現されている。

6. お腹が空いたので、(私は) 何か食べたい.

【希望】「～したい」

Zgłodniałem,	więc	chcę	coś	zjeść.
get hungry-1.M.SG.PF.PST	so	want-1SG.IMP.F.PRS	something-ACC	eat-PF.INF

希望は、主に英語の want に相当する *chcieć* で表現される。

7. 私が持ちましょう。

【意志】「(私が) ~しよう」

Wezmę.

take-1SG.PF.PRS

意志は単なる 1 人称単数形の動詞で表現するが、大切なのはアスペクトであり、ここでは完了体である。例文 7 の場合、動詞 *wziąć* 「持つ」が他動詞であるため、目的語（例えば、*to* 「それ」等）を加え、*Wezmę to* 「(私が) それを持ちましょう」または *Ja to wezmę* 「私がそれを持ちましょう」のように、目的語を添えた方がより自然である。

8. じゃあ、一緒に昼ご飯を食べましょう。

【勧誘】「(私たちが) ~しよう」

No	więc,	zjedzmy	razem	lunch.
well	so	eat-1PL.PF.IMP	together	lunch-ACC

勧誘は、動詞の 1 人称複数形またはその命令形で表現されるが、アスペクトが重要であり、例文 8 の場合は、完了体動詞で表現される。

9. 一緒に昼ご飯を食べませんか？

【相手の意向が不明な場合の勧誘】「~しませんか」

Może	zjemy	razem	lunch?
maybe	eat-1PL.PF.PRS	together	lunch-ACC

相手の意向が不明な場合、助詞 *może* 「もしかしたら／よろしかったら」を文頭に添え、疑問文にすることにより「~しませんか」という勧誘や提案をするのが、一般的である。

10. 明日、良い天気になるといいなあ。／明日は良い天気になってほしいなあ。

【希望】「~といいなあ／~してほしいなあ」

Mam	nadzieję,	że	jutro	będzie
have-1SG.IMP.F.PRS	hope-ACC	that	tomorrow	be-3SG.IMP.F.FUT
piękna	pogoda.			
beautiful-NOM	weather-NOM			

名詞 *nadzieja* 「希望」に後続する関係節内は直接法による表現が多い。

11. (私はここで待っているから) すぐにそれを持って来なさい。

【命令】「～しろ」

Przynieś	to	natychmiast.
bring-2SG.PF.IMP	it	immediately

命令は、動詞の命令形で表現されるのが一般的である。

12. そのペンをちょっと貸していただけませんか？

【懇願】「～していただけませんか？」

Czy	mógłbyś	mi	pożyczyć	na chwilę	ten	długopis?
Q	can-2.M.SG.IMP.F.SBJV	I-DAT	lend-PF.INF	for a moment	that	pen-ACC

懇願は、可能の助動詞を仮定法で表現することにより、婉曲化するのが一般的である。

13. あの人は中国語が読めます。／あの人は中国語を読むことができます。

【能力可能】「～できる」

Ta	osoba	umie	czytać	po chińsku.
that	person	be able to-3SG.IMP.F.PRS	read-IMP.F.INF	in Chinese

能力可能は、基本的に専用の助動詞 *umieć* により表現される。

14. 明かりが暗くて、ここに何が書いてあるのか、読めない。

【状況可能】「～できる」

Światło	jest	tak	słabe,	że	nie	mogę
light-NOM	be-3SG.PRS	so	weak	that	NEG	can-1SG.IMP.F.PRS

odczytać	tego,	co	tu	jest	napisane.
read out-PF.INF	that-GEN	what	here	be-3SG.IMP.F.PRS	written-PF

状況可能は、基本的に専用の助動詞 *móc* により表現される。

15. (朝早く出発したから) 彼らはもう着いているはずだ／もう着いたに違いない。

【確信】「～はずだ」

Oni już muszą być na miejscu.
they-MP already must-3PL.IMP.F.PRS be-INF in place

確信は、基本的に専用の助動詞 *musieć* により表現される。

16. (あの人は) 明日はたぶん来ないだろう。

【推量】「～だろう」

Przypuszczam, że jutro chyba nie przyjdzie.
suppose-1SG.IMP.F.PRS that tomorrow surely NEG come-3SG.PF.PRS

推量は、推量専用の動詞 *przypuszczać* を用いて表現されることが多い。

17. 彼らはまだ来ないなんて、きっと途中で車が壊れたんじゃないか。

【疑念】「～のではないか」

Skoro oni jeszcze nie przyjechali, to podejrzewam,
since they-MP still NEG arrive-3.MP.PL.PF.PST so suspect-1SG.IMP.F.PRS

że pewnie samochód się zepsuł po drodze.
that confidently car REF break-3.M.SG.PF.PST on the way

疑念は、動詞 *podejrzewać* 「疑わしく思う／推察・想像する」により表現するのが一般的である。その代わりに再帰動詞 *obawiać się* 「心配する」で表現することも可能である。ポーランド語の「壊れる」には再帰動詞 *zepsuć się* が使われている。

18. (昼間だからあの人は家に) さあ、いるかもしれないし、いないかもしれない。

【可能性】「～かもしれない」

No, może być, albo jej nie być.
well can-3SG be-INF or that-GEN NEG be-INF

可能性は、状況可能の助動詞で表現することができる。

19. (額に触ってみて) どうもあなたは熱があるようだ。

【視覚／聴覚以外の感覚による判断】「～ようだ」

Wydaje mi się, że masz gorączkę.
seem-3SG.IMP.F.PRS I-DAT REF that have-2SG.IMP.F.PRS fever-ACC

視覚／聴覚以外の感覚による判断においては、ポーランド語は(共感覚に基づき)視覚の動詞を転用し表現する言語、いわゆる [seem 型] 言語に属する。ポーランド語では、再帰動詞 *wydawać się* 「～のように見える／

思われる」が使われることが多い。

20. (天気予報によれば) 明日は雨が降るそうだ。

【伝聞】「～そうだ」

Podobno	jutro	będzie	padał	deszcz.
allegedly	tomorrow	be-3SG.IMPF.FUT	fall-3.M.SG.IMPF.PST	rain-NOM

伝聞には、助詞 *podobno* 「～という話／うわさだ」を用いた特殊な形式がある。

21 もしお金があつたら、あの車を買うんだけれどなあ。

【反実仮想】「～だったら～するのだが」

Gdybym	miał	pieniądze,	kupiłbym	ten	samochód.
If-1SG.SBJV	have-3.M.SG.IMPF.PST	money	buy-1.M.SG.PF.SBJV	this	car-ACC

例文 21 と 22 にあたる反実仮想や反実仮想過去は、ポーランド語の場合、主節・従属節ともに特別な法の形式を用いて表現する。

22. もしあなたが教えてくれていなかったら、私はそこにたどり着けなかったでしょう。

【反実仮想過去】「～だったら～したことだろう」

Gdybyś	nie	powiedział,	nie	dotarłbym	tam.
If-2SG.SBJV	NEG	say-3.M.SG.PF.PST	NEG	reach-1.M.SG.PF.SBJV	there

例文 22 は、状況により「もし（現在ないし未来において）あなたが教えてくれなかったら、私はそこにたどり着けないでしょう」と訳すことも可能である。どちらの意味かは、その時どきの状況によって判断する必要がある。

23. (あの人は) 街へ行きたがっている。

【3 人称の主体による希望】「～したがつている」

Chce	jechać	do	miasta.
want-3SG.IMPF.PRS	go-IMP.FIN	to	town-GEN

ポーランド語では、1 人称による希望と同じく *chcieć* を用いて表現するのが一般的である。

24. 僕にもそれを少し飲ませろ。

【1 人称命令】「(私に) ～させろ」

Pozwól	mi	też	trochę	tego	się	napić.
let-PF.IMP	I-DAT	also	a bit	that-GEN	REF	drink-PF.INF

ポーランド語では、許可使役の形式によって表現される。動詞「飲む」には、例文 24 の場合、「それを少し」という全体の一部分であることから、再帰動詞 *napić się* 「(ある量を) 飲む」が使われている。

25. これはあの人に持って行かせろ／持って行かせよう。

【3人称命令】「(彼に) ~させろ」

Niech	ta	osoba	to	weźmie.
let	that	person	it	take-3SG.PF.PRS

例文 25 のように、ポーランド語には文の冒頭に *niech* を添えた 3 人称命令形専用の特別な形式が存在する。

26. そのテーブルの上のお菓子は後で食べなさい。

【遠未来命令形】「(あとで) ~しろ」

Słodycze, które	leżą	na tym stole,	zjedz	później.	
sweets	that	lie-3PL.IMP.F.PRS	on the table	eat-PF.IMP	later

ポーランド語には、命令形に近未来／遠未来の対立は存在しない。

27. もっと早く来ればよかった。

【反実仮想】「~だったら~するのだが」

Chciałbym	przyjechać	wcześniej.
want-1.M.SG.IMP.F.SBJV	arrive-PF.INF	earlier

この例文は、文脈や状況により「もっと早く来たいんだけどなあ」と訳すことも可能である。

28. あなたも一緒に行ったら (どうですか) ?

【脱従属化】「~したら (どうか)」

Może	ty	też	pójdiesz	razem?
maybe	you-NOM	also	go-2SG.PF.PRS	together

例文 28 のような提案をする場合、助詞 *może* 「もしかしたら／よろしかったら」を文頭に添え、疑問文にすることによって「~したらどうか」と表現するのが一般的である。

29. オレがそんなこと知るか!

【(疑問詞を含まない) 反語】「~か!」

Czy	ja	to	wiem!
Q	I-NOM	it	know-1SG.IMP.F.PRS

疑問助詞 czy 等を用いるのが一般的である。

30. これを作った（料理した）のは、お母さんだよ？／いいえ、私が作ったのよ。

【付加疑問】「～よね!?!」

To	ugotowała	twoja	matka,	prawda?
it	cook-3.F.SG.PF.PST	your	mother	true

Nie,	ja	to	ugotowałam.
NEG	I-NOM	it	cook-1.F.SG.PF.PST

付加疑問を示す要素には *prawda*（英語の *true, right* に相当）を文末に添えることが多い。

略語

ACC=対格, DAT=与格, F=女性, FUT=未来, GEN=生格, IMP=命令形, IMPF=不完了体, INF=不定形, INST=造格, LOC=前置格, M=男性, MP=男性人間形, NEG=否定, NMP=非男性人間形, NOM=主格, PST=過去, PL=複数, PF=完了体, Q=疑問助詞, PRED=述語, PRS=現在, REF=再帰代名詞, SBJV=仮定法, SG=単数, 1=1 人称, 2=2 人称, 3=3 人称

参考文献

風間伸次郎 (2011) 「特集 モダリティ まえがき」東京外国語大学語学研究所『語学研究所論集』第 16 号, pp. 29-55.

執筆者連絡先 : morita@tufs.ac.jp

原稿受理 : 2020 年 12 月 15 日